人生の先輩に学ぶ「子育ての極意」

いつの時代でも、子育てに完璧はありません。失敗もあります。子育てを卒業した市民のみなさんに、失敗から学んだ「子育ての極意」を聞きました。

◆赤ちゃんの出すサインをよむ

赤ちゃんが泣くのは、「おなかがすいている、オムツが汚れている（不快）、体の調子が悪い、母の愛情を求めている、眠りたい」ということが多いです。泣き方で赤ちゃんの気持ちを見極めることができないと失敗します。見極めるためには、赤ちゃんとのスキンシップが大切です。赤ちゃんは、母親を眼で追いかけ、母親の笑顔を待っています。

◆他の子と比較せず、子どもの目線でみる

私の失敗は、「隣の芝生は青い」と感じ、ついわが子と比較したことです。「他の子は成長が早い。うちの子は遅れているのでは。」と顔がひきつり、叱っていました。しかし、「常に子どもの目線でみる」とのアドバイスで、わが子のすばらしさを発見し、素直に成長を認め、毎日笑顔になることができました。

◆父親とのつながりを濃密にする

私の失敗は、仕事を最優先にし、土日でも仕事を理由に、よく家を不在にしていたことです。父親である私に、わが子が「あなたは誰？」という反応を見せ、すんなりと抱っこすることができず、子どもが成長しても違和感があった時期がありました。

◆親にできなかったことは、わが子もできないことを自覚する

「自分が育てられたようにしか子どもを育てることはできない」と、よく耳にします。誰よりも「いい子」であってほしいという自分の高望みを押し付けていた時、「教育という名の虐待」であると指摘を受けました。しかし、「私がしていたことを、子どももしている」と思えば楽になりました。親子はしぐさがよく似ているので、自分を見つめ直すと、寛大に受け止めることができ、信頼を取り戻すことができました。

◆人の成長には違いがあるように子どもの成長も違っている

家でも、学校でも多くの経験・失敗が大切です。小学生になっても夜尿が治らない、いつまでもおむつがとれないことが許せず、認められなくなりました。しかし、急いで成長や結果を求めるのではなく、ゆっくり確実に成長させることが大切です。

子育て中の保護者の思いを共有することで、心配事から解放されます。子育てで心配なことがある時は、考えこまず、気軽に相談してください。

子育てに関する相談窓口

○家庭児童相談室 ☎22－3554
○保健センター ☎22－7157
○子育て支援センターミルクハウス ☎26－2845
○子育て支援センターゆりかご ☎22－1568
○子育て支援センターつくしんぼ ☎22－9100

「人権のまち竹原」　市民研究集会

アイリッシュハープの演奏と心温まる語りによる講演会

日時　8月24日（土）13時30分～15時
場所　勤労青少年ホーム　3階軽運動場　　※入場無料
テーマ　ハープの音色で心をひらいて～愛情は美しい言葉とぬくもりで～
講師　永山　友美子さん（オペレッタ作家・指導者・アイリッシュハープ奏者・埼玉純真短期大学客員教授）
講師プロフィール　1978年武蔵野音楽大学声楽科を卒業、1979年ウィーン国立アカデミー夏期ゼミナールへ参加、1980年文化使節として東欧諸国訪問・ユニセフ国際大会出席、現在自宅にて音楽教室を主宰するとともにオペレッタ＆アイリッシュハープを通して音楽のすばらしさと人権の大切さを多くの人に伝える活動を行っている。
問い合わせ　人権センター　☎22-3726

市民人権標語　小学生の作品　大切に　自分の命は　一つだけ